

シェアリングエコノミーのビジネスモデルを主題とした学習手法の提案

Proposal of Learning Method on Business Model of Sharing Economy

長嶋 啓太^{*1}, 仲林 清^{*2}

Keita Nagashima^{*1}, Kiyoshi Nakabayashi^{*2}

^{*1}千葉工業大学大学院 ^{*2}千葉工業大学

^{*1}Graduate School of Chiba Institute of Technology, ^{*2}Chiba Institute of Technology

Email: s1532116un@s.chibakoudai.jp

あらまし: 本稿ではシェアリングエコノミーのビジネスモデルを主題とした学習手法を提案する。シェアリングエコノミーは従来の産業とは違い、IT の普及により出現した新規のビジネスモデルといえる。経営と IT の両面からビジネスモデルを理解するために有効な学習主題である。しかし、学習者にとって抽象的なビジネスモデルの概念は理解が困難である。本研究は実在するシェアリングエコノミーの企業を題材にして既有知識の活用を図り、それらの抽象的な概念を学習者自らに再具体化させるなどの手法を適用し、学習主題の理解の深化を目指す。

キーワード: ビジネスモデル, シェアリングエコノミー, 再具体化, 既有知識の活用

1. はじめに

企業経営のあり方は IT の進歩やカスタマーニーズの多様化など、あらゆる要因の影響を受けて日々変化している。それに伴い新たな価値を創造する新規のビジネスモデルが出現しており、同じ産業でも仕組みや考え方は従来の産業と大きく異なる。

新規のビジネスモデルを主題とした学習は、現代におけるビジネスの新たな価値を早期に理解する事ができ、有用性がある。本研究では実在する企業のビジネスモデルを題材として学習主題を設定し、学習手法の設計を行う。

2. シェアリングエコノミー

シェアリングエコノミーは、個人が保有する資産の貸出や売買をインターネット上のプラットフォームで仲介するビジネスモデルである。資産には「モノ」、「空間」、「移動」、「スキル」、「金」の5つのカテゴリーが存在する⁽¹⁾。

事業主は互いのニーズが合うホスト（貸す人、売る人）とゲスト（借りる人、買う人）をマッチングさせる、ホストはゲストに対し資産を提供し、ゲストはホストに対しその分の料金を支払う。事業主はホストとゲスト（ないしどちらか片方）から取引が行われる度に手数料をとる⁽²⁾。

3. 学習主題

シェアリングエコノミーの基本的な性質や概念を抽象的な形で以下の3つに整理した。

(I) ネットワーク外部性

シェアリングエコノミーはプラットフォームビジネスの一種であり、ネットワーク外部性という性質が存在する。ネットワーク外部性とは、そのサービスの利用者が多いほど、サービスを利用する価値が向上する性質である。利用者は価値の高いプラットフォームに一気に移動するため、事業主は似通ったサービスを提供する事業主を淘汰して市場を独占できる。

(II) ニーズのロングテール化

シェアリングエコノミーの特徴としてゲストのニッチなニーズに対応できる点が挙げられる。従来のBtoCビジネスでは業務効率化や利益向上のため、顧客のメジャーなニーズに対応するのが一般的であるが、シェアリングエコノミーでは大量のホストによってゲストのあらゆるニーズに対応できる。

(III) 個人間取引と安全性

シェアリングエコノミーの事業主はサービスの信頼性や安全性に配慮しなければならない。事業主は「資産」を直接的に所有しないため、ホストが提供するサービスが良くないと、事業主の展開するプラットフォーム全体に悪影響を及ぼす可能性がある。

4. 学習手法

上に述べたようなビジネスモデルの概念は抽象度が高く、単なる知識付与型の学習手法では十分な学習効果は期待できない。よって、本研究では以下の3つの方針を適用する。

(a) 既有知識の活用

学習者にとって、より身近な事例をあげる事で経験や既有知識に結びつけ理解させる。シェアリングエコノミーは新規のビジネスモデルであり、サービスを認知していない学習者が存在する可能性がある。

そこで、資産のカテゴリーの中でも比較的認知度の高い「モノ」「空間」「移動」に限定する。また、とりあげるサービスとして「モノ」では国内利用者数最大の mercari、「空間」では大手民泊サービスの Airbnb、「移動」は Uber の事例をあげる⁽³⁾。

(b) 抽象化と再具体化

本方針について図1を用いて説明する。まず事例1, 2として「モノ」「空間」のシェアについて説明を行う。それから抽象的な部分である特性や概念を自ら抽出させ、その後事例3として「移動」の事例へ再具体化させ、抽象的な概念や性質を理解させる。

